

令和元年度
岩手県
NPO等の「絆力（きずなりよく）」を活かした
復興・被災者支援事業
評価報告書

都道府県担当部局	(窓口) 環境生活部若者女性協働推進室 担当者氏名 竹内 喜男 電話番号 019-629-5199 メールアドレス ac0006@pref.iwate.lg.jp
----------	--

1. 事業の成果目標の達成状況

番号	成果目標		達成状況	
	項目	目標（値）	達成状況	達成状況に関する説明等
1	補助金により支援するNPO等が行う復興・被災者支援事業への参加団体数	14 団体	14 団体	被災地におけるソフト事業（心のケア、コミュニティ形成）には依然としてニーズがあり、目標を達成したものの。
2	復興・被災者支援による受益者の取組に関する満足度についてのアンケート集計結果において、「どちらかといえば改善した」以上の割合	80%	80%	被災者及び被災地のニーズを的確に捉えて各NPO等が事業に取り組み、高い満足度が得られたものの。
3	マッチング・交流会参加団体数	10 団体	41 団体	被災地への継続的な支援について理解を得て、首都圏企業等の参加を多数得られたものの。

（備考）成果目標は事業実施計画において定めた内容と整合を取ってください。

2. 事業実施結果

2-1. 総括表

交付対象事業		事業費 (円)	国費 (円)	県費等 (円)	「1. 事業の成果目標」との対応(番号)	
県が実施した事業内容 (名称と実施主体)						
(1) NPO等の絆力を活かした復興・被災者支援の取組支援	①被災者の心のケア、健康・生活支援に向けた取組	(名称) 住民が主役の地域づくり事業 (実施主体) 特定非営利活動法人総合型りくぜんたかた	4,543,800	3,029,000	1,514,800 (454,000)	1, 2
		(名称) 映像文化によるコミュニティ形成事業 (実施主体) みやこ映画生活協同組合	4,257,076	2,838,000	1,419,076 (557,076)	1, 2
		(名称) 釜石市箱崎半島部8漁業集落の復興まちづくり (実施主体) 特定非営利活動法人釜石東部漁協管内復興市民会議	2,067,930	1,378,000	689,930 (206,930)	1, 2
		(名称) 多職種専門家の協働による被災住民への長期的な心のケア (実施主体) 特定非営利活動法人心の架け橋いわて	4,428,828	2,952,000	1,476,828 (443,828)	1, 2
		(名称) 東日本大震災文化芸術復興事業『三陸沿岸キッズミュージカル交流事業“2020”』 (実施主体) 特定非営利活動法人劇団ゆう	6,598,893	4,399,000	2,199,893 (847,893)	1, 2
		(名称) 被災地における子育て女性のコミュニティ形成と地域参画 (実施主体) 一般社団法人 SAVETAKATA	3,389,374	2,259,000	1,130,374 (339,374)	1, 2
	②コミュニティ形成等の復興に向けた取組	(名称) 三陸歌声喫茶キャラバン (実施主体) 特定非営利活動法人東北岩手応援チャンネル	2,351,982	1,567,000	784,982 (235,982)	1, 2
		(名称) 次世代へ引き継ぐ環境づくり (実施主体) 特定非営利活動法人 吉里吉里国	965,590	643,000	322,590 (96,590)	1, 2
		(名称) 滝沢市在住の東日本大震災による内陸避難者の地域での自己実現と自立生活に向けた基盤整備事業 (実施主体) 特定非営利活動法人いなほ	2,544,738	1,696,000	848,738 (254,738)	1, 2
		(名称) 文化芸術による新たなコミュニティ形成事業 (実施主体) 特定非営利活動法人いわてアートサポートセンター	5,222,944	3,481,000	1,741,944 (522,944)	1, 2
		(名称) 自立したコミュニティの「絆力」強化 (実施主体) 特定非営利活動法人陸前たがだ八起プロジェクト	3,462,230	2,308,000	1,154,230 (346,230)	1, 2
		(名称) 学びと交流の場を通じたコミュニティ支援事業～めだかの学校～ (実施主体) 特定非営利活動法人まあむたかた	3,761,828	2,507,000	1,254,828 (399,828)	1, 2

	(名称) 大槌町子育て世代の継続的支援体制の構築事業 (実施主体) 一般社団法人 Tsubomi	2,043,436	1,362,000	681,436 (215,436)	1, 2
④中間支援の取組	(名称) 復興支援NPO なんでも出前相談会 (実施主体) 特定非営利活動法人シニアパワーいわて	1,170,447	780,000	390,477 (117,447)	1, 2
小計 (a)		46,809,096	31,199,000	15,610,096 (5,039,096)	

※ 県費等欄中の下段 () 内は、取組実施主体負担額

交付対象事業		事業費 (円)	国費 (円)	県費 (円)	「1.事業の 成果目標」 との対応 (番号)
県が実施した事業内容 (名称と実施主体 (委託先))					
〇等の 絆力強化 (2)復興・被災者支援を行うNPO	(名称) 首都圏交流会及び専門家との交流会 (実施主体 (委託先)) 特定非営利活動法人 いわて連携復興センター	3,041,820	2,027,880	1,013,940	3
	(名称) 審査委員会等運営事業 (実施主体 (委託先)) 直営	2,359,719	1,573,146	786,573	1、2、 3
	小計 (b)	5,401,539	3,601,026	1,800,513	

合計 (a+b)	事業費 (円)	国費 (円)	県費 (円)	取組実施 主体 (円)
		52,210,635	34,800,026	12,371,513

(備考)「県が実施した事業内容」は、実施した事業について全て記載してください。

2-2. 各事業の成果

(1) NPO等の絆力を活かした復興・被災者支援の取組支援

整理番号	(1) - 1																																																				
事業名	住民が主役の地域づくり事業																																																				
取組実施主体と役割分担	特定非営利活動法人総合型りくぜんたかた																																																				
事業概要	<p>1 陸前高田市内の各地区を対象に運動の場を提供しながら交流による地域でのコミュニティ作り、健康作りを行う。</p> <p>2 幼児から高齢者まで幅広く運動の場を提供することにより、情報交換のできる地域を限定しないコミュニティ作り、健康作りを行う。</p> <p>《前年度から発展した取組》</p> <p>1 被災して移転した住民の地区あるいは被災して移転した住民と以前から住んでいる住民との地区のコミュニティ作り。</p> <p>2 震災後遊び場や運動する場が限定された環境で育った子どもたちの基礎体力の向上のため、子ども対象の教室を昨年度の教室に加えて開催及び幅広い年齢層へ健康づくり、健康維持・増進への意識改革を勧める。</p> <p>【実施計画及び活動実績】</p> <p>1. 地区公民館・災害公営住宅・事業所等訪問 計画 50回 実績 31回 達成率 62%</p> <p>2. 被災者の健康・生活支援</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>計画</th> <th>実績</th> <th>達成率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(1) 子どものからだ作り教室</td> <td>18回</td> <td>18回</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>(2) キッズ体操教室</td> <td>9回</td> <td>8回</td> <td>89%</td> </tr> <tr> <td>(3) 小学生水泳教室</td> <td>9回</td> <td>5回</td> <td>55%</td> </tr> <tr> <td colspan="4">(新型コロナ関連会場借用不能)</td> </tr> <tr> <td>(4) 小学生体操教室</td> <td>9回</td> <td>4回</td> <td>44%</td> </tr> <tr> <td colspan="4">(講師の都合による)</td> </tr> <tr> <td>(5) 小学生スキー教室</td> <td>1回</td> <td>2回</td> <td>200%</td> </tr> <tr> <td>(6) ヨガ教室</td> <td>36回</td> <td>36回</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>(7) スポーツ吹矢教室</td> <td>18回</td> <td>16回</td> <td>89%</td> </tr> <tr> <td>(8) ノルディックウォーキング教室</td> <td>18回</td> <td>17回</td> <td>94% (雨天中止)</td> </tr> <tr> <td>(9) ピラティス教室</td> <td>18回</td> <td>17回</td> <td>94% (台風19号)</td> </tr> <tr> <td>(10) 第7回陸前高田まるごと運動会</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>		計画	実績	達成率	(1) 子どものからだ作り教室	18回	18回	100%	(2) キッズ体操教室	9回	8回	89%	(3) 小学生水泳教室	9回	5回	55%	(新型コロナ関連会場借用不能)				(4) 小学生体操教室	9回	4回	44%	(講師の都合による)				(5) 小学生スキー教室	1回	2回	200%	(6) ヨガ教室	36回	36回	100%	(7) スポーツ吹矢教室	18回	16回	89%	(8) ノルディックウォーキング教室	18回	17回	94% (雨天中止)	(9) ピラティス教室	18回	17回	94% (台風19号)	(10) 第7回陸前高田まるごと運動会	1回	1回	100%
	計画	実績	達成率																																																		
(1) 子どものからだ作り教室	18回	18回	100%																																																		
(2) キッズ体操教室	9回	8回	89%																																																		
(3) 小学生水泳教室	9回	5回	55%																																																		
(新型コロナ関連会場借用不能)																																																					
(4) 小学生体操教室	9回	4回	44%																																																		
(講師の都合による)																																																					
(5) 小学生スキー教室	1回	2回	200%																																																		
(6) ヨガ教室	36回	36回	100%																																																		
(7) スポーツ吹矢教室	18回	16回	89%																																																		
(8) ノルディックウォーキング教室	18回	17回	94% (雨天中止)																																																		
(9) ピラティス教室	18回	17回	94% (台風19号)																																																		
(10) 第7回陸前高田まるごと運動会	1回	1回	100%																																																		

<p>事業費と その内訳</p> <p>事業費と その内訳</p>	<p>【財源内訳】</p> <p>(国) 3,029,000円 (県) 1,060,000円 (取組実施主体) 454,800円 計 4,543,800円</p> <p>【経費内訳】</p> <p>人件費 3,235,565円、諸謝金 795,724円、旅費 137,980円 消耗品費 56,431円、通信運搬費 2,276円、使用料及び会場借料 193,162円 委託費 100,000円 その他 22,662円 計 4,543,800円</p>
<p>事業の 成果</p>	<p>【成果目標の達成状況】</p> <p>復興・被災者支援による受益者の取組に対する満足度についてのアンケート 集計結果において「どちらかといえば改善した」以上の割合 県目標値 80% → 本事業 88%</p> <p>【直接的な効果】</p> <p>上記【実施計画及び活動実績】のとおり。</p> <p>【波及的な効果】</p> <p>1 集団移転、自己再建移転、災害公営住宅での居住者など移転者ほか、初対面 の住民の交流の場となった。</p> <p>2. 幼児及び小学生対象教室では、保護者同士の地区を越えた交流につながり、 成人～高齢者スポーツ教室では、教室内外での交流意欲の増進がみられた。</p> <p>第7回陸前高田まるごと運動会は、震災前は陸前高田市内9地区で地区運動 会を開催。現在開催は3地区という現状の中で、地区を越えて参加を募り、参 加者が作り上げる運動会とした</p>
<p>事業実施 年度以降 の方針</p>	<p>【助成金】 訪問事業…スミセイコミュニティスポーツ推進助成プログラム 各種スポーツ教室の開催…日本スポーツ振興センターくじ助成金</p> <p>【寄付金】 「5」のつく日。JCBで復興支援</p> <p>震災後9年が経ち、市民に求められているのは、一度きりのイベントではなく 日々の生活の中での活動であると考えている。自分の健康や体力に気持ちを向け たときに参加してもらえ活動を継続していきたい。</p>
<p>評価</p> <p>(上段の該当 する評価にチ ェックを付け、 下段にその理 由を記載して ください)</p>	<p>被災地の復興・被災者支援に関して、</p> <p><input type="checkbox"/> A：特に優れた成果が得られた <input type="checkbox"/> B：優れた成果が得られた</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> C：一定の成果が得られた <input type="checkbox"/> D：限定的であるが成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> E：成果が得られなかった</p> <p>(上記評価の理由)</p> <p>計画目標達成項目数割合が62%にとどまったが、アンケート結果88%と高評価 となっていることから、「一定の成果が得られた」と評価する。</p>

整理番号	(1) - 2
事業名	映像文化によるコミュニティ形成事業
取組実施主体と役割分担	みやこ映画生活協同組合
事業概要	<p>【事業概要】</p> <p>1 映画・映像文化による心のケアと交流の場づくりからコミュニティ形成を目的とした取組を行う。</p> <p>2 被災地内の公民館にて映画を使った地域イベントと上映者育成ワークショップを実施する。</p> <p>3 地域住民全体及び近隣の地域も対象に地域映像祭を実施する。</p> <p>〈前年度から発展した取組〉</p> <p>1 被災者(公営住宅入居者)との交流の場づくりとして、被災地域の公民館等の公共施設での実施と、これまで行ってこなかった内陸の災害公営住宅での上映会を実施した。</p> <p>2 地域の若者と一緒に企画を考え進めながら、一緒に新しい地域を考えるイベントとして開催。上映イベント実施のノウハウを伝えるワークショップを開催しての次世代育成や、映画だけに限らず、様々な内容を盛り込んで地域資源と地元アイデンティティの再確認の場・イベントを作りあげた。</p> <p>3 地域映像祭は4地域から5地域へと増やし、内陸でも実施した。</p> <p>【実施計画及び活動実績】</p> <p>1 被災地内の公民館等での映画上映会と交流サロン 宮古市×2箇所(4回)、釜石市×2箇所(5回)、山田町×2箇所(4回) 大槌町×2箇所(4回) 計17回実施(106.3%) 参加者計405名(126.6%)</p> <p>2 内陸の災害公営住宅での映画上映会と交流サロン 会場 盛岡市 備後災害公営住宅集会所 10月19日 参加者20名、11月2日 参加者19名、12月17日 参加者42名 計3回実施(150.0%) 参加者延べ81名(202.5%)</p> <p>3 公民館をつかった上映会と地域イベント+ワークショップ(100.0%) 釜石市 鶴住居公民館 1回実施 参加者数200名(400%)</p> <p>4 地域映像祭 大槌町、盛岡市、釜石市、陸前高田市、宮古市各1回 計5回実施(100.0%) 延べ参加者数計479名(95.8%)</p>

<p>事業費と その内訳</p>	<p>【財源内訳】 (国) 2,838,000円 (県) 862,000円 (取組実施主体) 557,076円 計 4,257,076円</p> <p>【経費内訳】 人件費 1,893,239円、諸謝金 200,190円、旅費 147,188円 消耗品費 67,231円、印刷製本費 167,009円、通信運搬費 43,964円 使用料及び会場借料 1,630,400円、募集広告費 96,455円、 その他 11,400円 計 4,257,076円</p>
<p>事業の 成果</p>	<p>【成果目標の達成状況】 ・ 県全体の事業の達成目標 復興・被災者支援による受益者の取組に対する満足度についてのアンケート集計結果において「どちらかといえば改善した」以上の割合 県目標値 80% → 本事業 89%</p> <p>【直接的な効果】 上記【活動実績】のとおり。</p> <p>【波及的な効果】 1 孤独感・ストレス解消、気持ちのリフレッシュができ心の健康に繋がった。 2 公営住宅入居者と地域の方等の交流が図られた。 3 地域を考える場となり地域資源と地元アイデンティティの再確認の場となった。 4 他団体と連携ができイベントを盛り上げられた。 5 (地域映像祭に関して) 他の地域からの来場者もあり、その地域の映像作品を鑑賞し、課題や地域文化への理解、交流人口増にもつながった。</p>
<p>事業実施 年度以降 の方針</p>	<p>1 地域映像祭は好評を得ており、風化防止等を期し、引続き被災地以外(内陸や首都圏等)で実施していきたい。 2 地域の方々が自主的に活動できるよう上映者育成を図っていく。 3 目的にあった様々な助成金に応募して資金を調達していく。また、参加料を頂きながら、あわせて寄付金のお願いもしていく。</p>
<p>評価</p> <p>(上段の該当する評価にチェックを付け、下段にその理由を記載してください)</p>	<p>被災地の復興・被災者支援に関して、 <input type="checkbox"/> A : 特に優れた成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/> B : 優れた成果が得られた <input type="checkbox"/> C : 一定の成果が得られた <input type="checkbox"/> D : 限定的であるが成果が得られた <input type="checkbox"/> E : 成果が得られなかった</p> <p>(上記評価の理由) 計画達成項目数割合、アンケート結果ともに良好であり、事業者自己評価と同じく、「優れた成果が得られた」評価とする。</p>

整理番号	(1) - 3																																								
事業名	釜石市箱崎半島部8漁業集落の復興まちづくり																																								
取組実施主体と役割分担	特定非営利活動法人釜石東部漁協管内復興市民会議																																								
事業概要	<p>【事業概要】</p> <p>1 漁業の学舎（ウミガッコ）推進事業</p> <p>(1) 漁業再生のための漁業体験ツアー及びサップ船による観光ツアー実施。</p> <p>(2) 漁業従事者の高齢化と担い手不足、深刻な水揚げの減少について専門家の講演会（勉強会）をとおして課題認識を共有し、市や県の対応を学ぶ。</p> <p>2. 復興まちづくり・ひとづくり事業</p> <p>(1) 被災地区の幅広い課題について岩手県沿岸広域振興局と釜石市復興推進本部（必要に応じて担当課）及び本NPOの理事長以下の理事（各地区の代表者、有識者など）が、情報・意見交換を行って早期の解決を図る。</p> <p>(2) 被災地域住民の心の癒しと独居老人の孤独化防止のために、園芸教室を開催する。</p> <p>(3) パソコン教室を地域の高齢者と鶴住居小学校の児童を対象に実施する。</p> <p>(4) ワークショップを開催し、専門家の指導を受ける認知症対策講座を実施。</p> <p>(5) 健康寿命を維持するために、片岸地区で百歳体操を実施する。</p> <p>《前年度から発展した取組》</p> <p>1 漁業の学舎（ウミガッコ）推進事業 海外からの見学者を受け入れる。</p> <p>2 復興まちづくり・ひとづくり事業</p> <p>(1) パソコン教室の実績をもとに鶴住居小学校の授業をサポートする。</p> <p>(2) 健康寿命を維持するために、片岸地区で百歳体操を実施する。</p> <p>【実施計画及び活動実績】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>計画</th> <th>実績</th> <th>達成率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 漁業体験ツアー及び観光ツアー</td> <td>200名</td> <td>306名</td> <td>153%</td> </tr> <tr> <td>2 漁業関係の講演会</td> <td>15名</td> <td>20名</td> <td>133%</td> </tr> <tr> <td>3 理事協議会</td> <td>180名</td> <td>131名</td> <td>73%</td> </tr> <tr> <td>4 災害復興まちづくりワークショップ</td> <td>10名</td> <td>9名</td> <td>90%</td> </tr> <tr> <td>5 園芸教室開催</td> <td>10名</td> <td>8名</td> <td>80%</td> </tr> <tr> <td>6 パソコン教室</td> <td>12回</td> <td>12回</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>7 認知症対策講座</td> <td>5回</td> <td>5回</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>8 百歳体操</td> <td>300名</td> <td>527名</td> <td>176%</td> </tr> <tr> <td>9 郷土料理講習会</td> <td>30名</td> <td>27名</td> <td>90%</td> </tr> </tbody> </table>		計画	実績	達成率	1 漁業体験ツアー及び観光ツアー	200名	306名	153%	2 漁業関係の講演会	15名	20名	133%	3 理事協議会	180名	131名	73%	4 災害復興まちづくりワークショップ	10名	9名	90%	5 園芸教室開催	10名	8名	80%	6 パソコン教室	12回	12回	100%	7 認知症対策講座	5回	5回	100%	8 百歳体操	300名	527名	176%	9 郷土料理講習会	30名	27名	90%
	計画	実績	達成率																																						
1 漁業体験ツアー及び観光ツアー	200名	306名	153%																																						
2 漁業関係の講演会	15名	20名	133%																																						
3 理事協議会	180名	131名	73%																																						
4 災害復興まちづくりワークショップ	10名	9名	90%																																						
5 園芸教室開催	10名	8名	80%																																						
6 パソコン教室	12回	12回	100%																																						
7 認知症対策講座	5回	5回	100%																																						
8 百歳体操	300名	527名	176%																																						
9 郷土料理講習会	30名	27名	90%																																						

<p>事業費と その内訳</p>	<p>【財源内訳】 (国) 1,378,000円 (県) 483,000円 (取組実施主体) 206,930円 計 2,067,930円</p> <p>【経費内訳】 人件費 752,000円、諸謝金 73,800円、旅費 51,810円 消耗品費 383,335円、印刷製本費 30,107円、通信運搬費 19,086円 使用料及び会場借料 33,400円、募集広告費 31,152円、 委託費 673,000円 その他 20,240円 計 2,067,930円</p>
<p>事業の 成果</p>	<p>【成果目標の達成状況】 県全体の事業の達成目標 復興・被災者支援による受益者の取組に対する満足度についてのアンケート集計結果において「どちらかといえば改善した」以上の割合 県目標値 80% → 本事業 57%</p> <p>【直接的な効果】 上記【実施計画及び活動実績】のとおり。</p> <p>【波及的な効果】 1 被災地区の課題共有と解決策について、各地区の住民に円滑に伝えられた。 2 園芸教室を通じて参加者の心の癒し、独居老人の孤独化防止に寄与した。 3 百歳体操が市内の他地区に波及している。</p>
<p>事業実施 年度以降 の方針</p>	<p>1 地域づくりの中規模助成金を獲得し各種体験イベントを実施していく。 2 特産品の開発と販売促進事業での海産物加工品の売上を自己資金として組織運営の財源とする。 3 持続可能な事業となるための資金調達構想を確立し多様な団体との連携・協働を実施していく。</p>
<p>評価</p> <p>(上段の該当する評価にチェックを付け、下段にその理由を記載してください)</p>	<p>被災地の復興・被災者支援に関して、 <input type="checkbox"/> A：特に優れた成果が得られた <input type="checkbox"/> B：優れた成果が得られた <input type="checkbox"/> C：一定の成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/> D：限定的であるが成果が得られた <input type="checkbox"/> E：成果が得られなかった</p> <hr/> <p>(上記評価の理由) 1 事業者はイベントの活況等を理由に「B」と評価としている。 2 計画達成項目数割合 56%、アンケート結果は 57% (心のケア分野 52%)、ともに「限定的であるが成果が得られた」と評価する。</p>

整理番号	(1) - 4
事業名	多職種専門家の協働による被災住民への長期的な心のケア
取組実施主体と役割分担	特定非営利活動法人心の架け橋いわて
事業概要	<p>いわゆる災害弱者といわれる高齢者、児童、障がい者および彼らの支援者にむけた相談事業と住宅訪問による個別的支援と予防的啓発教育活動によるコミュニティ支援を行う。</p> <p>《前年度から発展した取組》</p> <p>これまでの被災地域支援団体との連携協力による心のケア活動を長期的に継続するとともに、精神科医師、精神科専門看護師、臨床心理士、音楽療法士、精神保健福祉士、産業カウンセラー、キャリアコンサルタント、医療工学専門家などの多職種専門家との協働を拡充することで、より全人的な復興支援を推進する。</p> <p>【実施計画及び活動実績】(()は実績値及び達成率)</p> <p>1 多職種専門家の協働による心のケア活動</p> <p>(1) 高齢者への支援と支援者支援 目標実施回数：9回(22回 244%)、目標利用者数：200名(243名 121%)</p> <p>(2) 児童への支援と支援者(保護者)支援 目標実施回数：2回(2回 100%) 目標利用者数：30名(延べ16名 53%)</p> <p>(3) 障がい者への支援と支援者支援 目標実施回数：7回(6回 85%) 目標利用者数：60名(延べ21名 35%)</p> <p>2 相談対応および住宅訪問による個別的心のケア 目標実施回数：35回(35回 100%) 目標利用者数：110名(延べ56名 51%)</p> <p>3 被災地コミュニティへの予防的メンタルヘルス啓発教育 モノづくりサロン：2回(2回 100%) 職域サロン：2回(2回 100%)</p>
事業費とその内訳	<p>【財源内訳】</p> <p>(国) 2,952,000円 (県) 1,033,000円 (取組実施主体) 443,828円 計 4,428,828円</p> <p>【経費内訳】</p> <p>人件費 1,128,430円、諸謝金 876,050円、旅費 1,834,836円 消耗品費 67,678円、印刷製本費 66,871円、通信運搬費 10,961円 使用料及び会場借料 363,370円、募集広告費 36,560円、 その他 44,072円 計 4,428,828円</p>

<p style="text-align: center;">事業の 成果</p>	<p>【成果目標の達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県全体の事業の達成目標 <ul style="list-style-type: none"> 復興・被災者支援による受益者の取組に対する満足度についてのアンケート集計結果において「どちらかといえば改善した」以上の割合 県目標値 80% → 本事業 74% <p>【直接的な効果】</p> <p>上記【実施計画及び活動実績】のとおり。</p> <p>【波及的な効果】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 支援者に対する支援による、地域メンタルヘルス支援の質が向上した。 2 現地の他の支援団体との交流、協働を推進し、当法人が活用できる現地資源の充実化が図られた。 3 共同サロンの実施を通じて、現地社会福祉協議会との連携強化を図ることができ、相談を受け付ける間口の拡大を図ることができた。 <p>【その他事業によって得られた成果等】</p> <p>学会にて本事業を含む当団体の取組みと成果に関する報告を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 第27回日本精神科救急学会学術総会 <ul style="list-style-type: none"> 当団体副理事長の長谷川朝穂が登壇し、活動報告を行った。 (2) 第26回多文化間精神医学会学術総会 <ul style="list-style-type: none"> 共催シンポジウム「東日本大震災被災コミュニティの喪失と再生」を企画・運営し、理事長の鈴木満が座長を務めるとともに活動報告を行った。
<p style="text-align: center;">事業実施 年度以降 の方針</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 現地活動への参加者数増加にむけて、地元団体との連携強化を行う。 2 被災地コミュニティで必要とされる活動を行うために、これまでの活動に対する振り返りと展望（アーカイブ制作）を行い、変容するメンタルヘルス需要に応じたきめ細やかな支援を継続する。 3 天候不順時や大規模感染症時における代替手段としてのオンライン遠隔支援を推進する。
<p style="text-align: center;">評価</p> <p>(上段の該当する評価にチェックを付け、下段にその理由を記載してください)</p>	<p>被災地の復興・被災者支援に関して、</p> <p><input type="checkbox"/> A：特に優れた成果が得られた <input type="checkbox"/> B：優れた成果が得られた</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> C：一定の成果が得られた <input type="checkbox"/> D：限定的であるが成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> E：成果が得られなかった</p> <hr/> <p>(上記評価の理由)</p> <p>当法人の活動ぶりはマスコミでも取り上げられており、地域における事業継続への期待は大きい。</p> <p>計画達成項目数割合 60%、アンケート結果 74%をもとに、「一定の成果が得られた」と評価する。</p>

整理番号	(1) - 5
事業名	東日本大震災文化芸術復興事業『三陸沿岸キッズミュージカル交流事業“2020”』
取組実施主体と役割分担	特定非営利活動法人劇団ゆう
事業概要	<p>【事業概要】</p> <p>三陸沿岸の北部エリア・中部エリア・南部エリアの会場毎に出演する児童・生徒170名を募集し、盛岡広域圏内から劇団ゆうに在籍する児童・生徒等80名と創作ミュージカルの制作や新しい文化スポーツ体験を通じて、近未来の沿岸地域の担い手の育成と友情のネットワークの基礎を構築する。</p> <p>《前年度から発展した取組》</p> <p>新しい活動：文化スポーツ団体との協働</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 プロパフォーマーによるアクロバティックの鑑賞と初歩的な体験を行う。 2 プロ体操講師による潜在的体幹能力を伸ばすストレッチ等の指導を行う。 3 プロトランポリン講師によるエアートランポリンの初歩的な体験を行う。 <p>【実施計画及び活動実績】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ミュージカルの公演 <ol style="list-style-type: none"> (1) 山田町会場 令和2年2月2日(日) 出演者 78名、公演スタッフ 136名、観客数 555名 (2) 大船渡市会場 令和2年2月16日(日) 出演者 118名、公演スタッフ 240名、観客数 860名 (3) 洋野町会場 令和2年2月23日(日) 出演者 99名、公演スタッフ 240名、観客数 701名 2 心のケアと交流、地域コミュニティづくりに向けての活動 家族スタッフや市民ボランティアの応募数 <ol style="list-style-type: none"> (1) 家族スタッフ 3会場 延べ1,338名 (2) 市民ボランティア 3会場 延べ 283名 3 新しい活動：文化スポーツ団体との協働 <ol style="list-style-type: none"> (1) エアートランポリン体験 (2) 文化スポーツ体験活動 3会場(洋野町、山田町、大船渡市) 開催回数 各2回、参加人数(出演児童・生徒) 延べ227名 <p>※(事業者報告) 目標値設定項目：33項目 達成率100%以上 全33項目</p>

事業費とその内訳	<p>【財源内訳】</p> <p>(国) 4,399,000円 (県) 1,352,000円 (取組実施主体) 847,893円 計 6,598,893円</p> <p>【経費内訳】</p> <p>人件費 0円、諸謝金 771,710円、旅費 230,200円 消耗品費 258,572円、印刷製本費 296,779円、通信運搬費 9,012円 使用料及び会場借料 845,326円、募集広告費 123,750円、 委託費 4,056,834円 その他 6,710円 計 6,598,893円</p>
事業の成果	<p>【成果目標の達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県全体の事業の達成目標 <ul style="list-style-type: none"> 復興・被災者支援による受益者の取組に対する満足度についてのアンケート集計結果において「どちらかといえば改善した」以上の割合 県目標値 80% → 本事業 75% <p>【直接的な効果】</p> <p>上記【実施計画及び活動実績】のとおり。</p> <p>【波及的な効果】</p> <p>自治体職員に統導された他エリアの児童・生徒やその家族が自主的に観劇に訪れたことは、三陸沿岸200キロ交流の機会の提供に繋がった。</p>
事業実施年度以降の方針	<p>自立を目指す文化芸術活動の担い手を育成するために、参加する児童・生徒の意識と意欲の向上、行政の理解と支援、家族や地域住民の理解と応援のあり方が整いつつあるため各エリアの実情に合わせて自立支援活動を次年度から始める。</p>
評価 <small>(上段の該当する評価にチェックを付け、下段にその理由を記載してください)</small>	<p>被災地の復興・被災者支援に関して、</p> <p><input type="checkbox"/>A：特に優れた成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/>B：優れた成果が得られた <input type="checkbox"/>C：一定の成果が得られた <input type="checkbox"/>D：限定的であるが成果が得られた <input type="checkbox"/>E：成果が得られなかった</p> <p>(上記評価の理由)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 事業者評価は、「C(一定の成果が得られた)」としている。 2 計画達成率は、目標設定33項目において全て100%を超え、多くの参加者を得ている。アンケート結果では75%であることから、「優れた成果が得られた」と評価する。

整理番号	(1) - 6
事業名	被災地における子育て女性のコミュニティ形成と地域参画
取組実施主体と役割分担	一般社団法人 SAVETAKATA
事業概要	<p>本事業は被災した子育て女性が主体的に「①はなす：お茶会やイベントなどによる意見交換②うごく：情報発信や小さな取り組み③とどける：情報発信や提言」の3つの取り組みを行い、話し合い・助け合うコミュニティを創出すること、そして自信を持ち地域に参加をしていくことを目指す事業である。</p> <p>【実施計画及び活動実績】</p> <p>1 子育て女性向け意見交換会の実施 (12回、120名参加) 開催回数：目標 12回 実績 9回 達成率 75% 参加人数：目標 120名 実績 96名 達成率 80%</p> <p>2 ママライターの育成、記事執筆 (10名程度、30記事程度) 参加人数：目標 10名 実績 10名 達成率 100% 記事数：目標 90記事 実績 77記事 達成率 85%</p> <p>3 子育て女性の主体的な活動 (2~3活動、イベントや勉強会等を想定) 開催回数：目標 3回 実績 4回 達成率 133%</p>
事業費とその内訳	<p>【財源内訳】</p> <p>(国) 2,259,000円 (県) 791,000円 (取組実施主体) 339,374円 計 3,389,374円</p> <p>【経費内訳】</p> <p>人件費 2,485,896円、諸謝金 385,000円、旅費 104,300円 消耗品費 17,165円、印刷製本費 5,130円、通信運搬費 421円 使用料及び会場借料 28,786円、委託費 357,576円、 その他 5,100円 計 3,389,374円</p>
事業の成果	<p>【成果目標の達成状況】</p> <p>県全体の事業の達成目標 復興・被災者支援による受益者の取組に対する満足度についてのアンケート集計結果において「どちらかといえば改善した」以上の割合 県目標値 80% → 本事業 84%</p> <p>【直接的な効果】</p> <p>上記【実施計画及び活動実績】のとおり。</p>

	<p>【波及的な効果】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 子育て女性で声を出す、地域に参加をするひとが増える。 2 子育て女性のなかで、参考になるロールモデルが数名生まれる。 3 子育て女性コミュニティが形成され、自然な助け合いがはじまる。 4 子育て女性の課題に関して、地域住民や関係者が考えはじめる。 <p>【その他事業によって得られた成果等】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 執筆活動に携わった母親からは、非常に高い評価をいただいた。「取材、写真、執筆、入力作業、提出までの達成感があった」「またやりたい」などの声が非常に多く、自信を持って地域に参画することにつながった。 2. 「陸前高田市ではシルバー人材センターの託児利用率が低くもったいない」という事がわかっており、当事者（シルバー人材センター従事者）からは「もっと利用して欲しい」との声があったため、NPO とシルバー人材センターの連携のモデルケースとすべく実施した。なお、このような形でのシルバー人材センターの託児利用ケースは当該地域でも過去に前例が無く、関係者の間で本事業が非常に高い評価を得る要因の一つになった。
<p>事業実施 年度以降 の方針</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 子育て女性の人的資源を活用し、事業者、NPO、行政 等から情報発信や事務局業務の受注を進める。また、多分野で活動する法人の強みを活かし、小さな仕事（ペットシッターや草刈りなどマイクロタスク）の受注を幅広く開始、地域の困りごとを解決しながら自主財源を獲得していく。 2 子育て女性支援をすることでの信頼資本の増加によって、さまざまな案件受注、財源獲得が見込める。さらに、地域における協力・支援者が増えるため、物や場の無償提供を受けることや、ボランティア参加が増えることで、支出削減にもつながる。 3 ふるさと納税の活用 ふるさと納税からの事業費一部補助を提案、活用を進めることを検討
<p>評価</p> <p>（上段の該当する評価にチェックを付け、下段にその理由を記載してください）</p>	<p>被災地の復興・被災者支援に関して、</p> <p><input type="checkbox"/> A：特に優れた成果が得られた <input type="checkbox"/> B：優れた成果が得られた</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> C：一定の成果が得られた <input type="checkbox"/> D：限定的であるが成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> E：成果が得られなかった</p> <p>（上記評価の理由）</p> <p>計画達成項目数割合は40%にとどまったが、アンケート結果において満足度84%ではあることから、「一定の成果が得られた」と評価する。</p>

整理番号	(1) - 7
事業名	三陸歌声喫茶キャラバン
取組実施主体と役割分担	特定非営利活動法人東北岩手応援チャンネル
事業概要	<p>1 生演奏バンドで住民たちが皆で一緒に大きな声を出して歌う 東日本大震災による被災者（宮古市、大槌町、釜石市）の災害公営住宅住民、周辺住民を対象に生演奏バンドで住民たちが皆で一緒に大きな声を出して歌ってもらう。時には演奏にあわせて踊ってもらう。参加する人のほとんどは「生演奏でマイクを持って歌う」ことに慣れてない分、カラオケで歌うのとは違い、皆で声を合わせ、助け合って歌っていくことで住民間の交流の親密度を増加させる手助けになりコミュニティ形成に役立てる。</p> <p>2 開催風景を動画撮影・編集し復興途上のアーカイブとして保存 参加した人も不参加だった人も一緒に記録映像を見る機会を催すことにより、再び地域交流の場を設けるように誘導する。</p> <p>【実施計画及び活動実績】</p> <p>1 三陸歌声喫茶キャラバン 計画 20回 実績 17回 達成率 85% 開催期間：令和元年8月～令和2年1月。 実施場所：釜石市、大槌町、宮古市（災害公営住宅や、交流センター施設） 宮古市田老 6回 参加者 延べ366人 ボランティア 延べ10人 大槌町 7回 参加者 延べ329人 ボランティア外 延べ13人 釜石市 4回 参加者 延べ58人 ボランティア 延べ11人</p> <p>2 記録映像撮影編集（達成率100%） 全17回分の撮影編集を映像データとして保存。 2月10日～3月20日 編集作業及びDVDコピー作業 3月25日～28日で各関係部署を訪問し完了報告と共にDVD提出。</p>
事業費とその内訳	<p>【財源内訳】 （国）1,567,000円 （県）549,000円 （取組実施主体）235,982円 計 2,351,982円</p> <p>【経費内訳】 人件費 1,310,500円、旅費 879,829円 消耗品費 9,007円、印刷製本費 17,210円、通信運搬費 2,480円 使用料及び会場借料 132,956円 計 2,351,982円</p>

<p style="text-align: center;">事業の 成果</p>	<p>【成果目標の達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県全体の事業の達成目標 <ul style="list-style-type: none"> 復興・被災者支援による受益者の取組に対する満足度についてのアンケート集計結果において「どちらかといえば改善した」以上の割合 県目標値 80% → 本事業 81% <p>【直接的な効果】</p> <p>上記【事業計画及び活動実績】のとおり。</p> <p>【波及的な効果】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 自治会活動の活性化につながった。 2 地元愛の再燃につながり地域活性化につながった。 3 仮設住宅から戸建ての復興住宅に住民皆で引っ越したが、会話を交わす機会が減ってしまった地区では歌声喫茶の開催により住民たちが集まる機会を増やせてコミュニティづくりの一役を担うものに繋がった。 4 地元高校生の参加により世代間交流の場ともなった。 5 体を動かしたり声を出して活動的な生活の一助を目標としているお茶っこの会を開催している自治会では当事業がその目標達成の後押しになった。 6 自治会からは「今後も夕涼み会やクリスマス会、新年交賀会といった比較的規模の大きな地域行事において興行面でのサポートをしてもらえたら嬉しい。」という声が挙がり、コミュニティ活性化の確かな支援事業と成し得た。 <p>【その他事業によって得られた成果】</p> <p>学生ボランティアの参加促進により、今後の継続的な支援活動への参加を見込めるようになった。</p>
<p style="text-align: center;">事業実施 年度以降 の方針</p>	<p>当事業は継続していくうちに徐々に社会福祉関連の色合いも持つようになってきた。地域づくりや生涯学習に関わる助成金なども対象としつつ、より幅広いカテゴリで活動を展開していきたい。</p>
<p style="text-align: center;">評価</p> <p>(上段の該当する評価にチェックを付け、下段にその理由を記載してください)</p>	<p>被災地の復興・被災者支援に関して、</p> <p> <input type="checkbox"/> A：特に優れた成果が得られた <input type="checkbox"/> B：優れた成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/> C：一定の成果が得られた <input type="checkbox"/> D：限定的であるが成果が得られた <input type="checkbox"/> E：成果が得られなかった </p> <hr/> <p>(上記評価の理由)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 マスコミにも取り上げられ、継続的な復興支援活動として評価されている。 2 計画達成項目数割合が50%であるが、アンケート結果81%と県の目標をクリアしていることから、「一定の成果が得られた」と評価する。

整理番号	(1) - 8																				
事業名	次世代へ引き継ぐ環境づくり																				
取組実施主体と役割分担	特定非営利活動法人 吉里吉里国																				
事業概要	<p>コミュニティづくり：より地域に密着し充実した内容で、薪を活用したイベント・セミナーを開催することで、内外交流人口の増加、コミュニティの形成促進、地域活性化を図り、被災者の心と体の健康の増進へつなげる。</p> <p>【実施計画及び活動実績】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th></th> <th>計画</th> <th>実績</th> <th>達成率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>薪まつり開催（11月3日～4日）</td> <td>参加者 600名</td> <td>594名</td> <td>99%</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>山神まつり開催（12月12日）</td> <td>参加者 60名</td> <td>73名</td> <td>121.7%</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>連携団体数</td> <td>40</td> <td>43</td> <td>107.5%</td> </tr> </tbody> </table>			計画	実績	達成率	1	薪まつり開催（11月3日～4日）	参加者 600名	594名	99%	2	山神まつり開催（12月12日）	参加者 60名	73名	121.7%	3	連携団体数	40	43	107.5%
		計画	実績	達成率																	
1	薪まつり開催（11月3日～4日）	参加者 600名	594名	99%																	
2	山神まつり開催（12月12日）	参加者 60名	73名	121.7%																	
3	連携団体数	40	43	107.5%																	
事業費とその内訳	<p>【財源内訳】</p> <p>（国）643,000円 （県）226,000円 （取組実施主体）96,590円 計 965,590円</p> <p>【経費内訳】</p> <p>人件費 921,000円、消耗品費 44,590円、計 965,590円</p>																				
事業の成果	<p>【成果目標の達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 県全体の事業の達成目標 <ul style="list-style-type: none"> 復興・被災者支援による受益者の取組に対する満足度についてのアンケート集計結果において「どちらかといえば改善した」以上の割合 県目標値 80% → 本事業 88% <p>【直接的な効果】</p> <p>上記【実施計画及び活動実績】のとおり。</p> <p>【波及的な効果】</p> <p>1 昨年度までは地域内外の住民交流を、当団体が中心となって輪を広げたが、今年度はさらに広く地域内及び周辺地域で活動する団体（林業関連、地域復興、コミュニティ活性化に携わる震災後できた新たな団体）との連携を強化</p>																				

	<p>して実施した。</p> <p>2 今年度話合いができた 43 団体とは、次年度以降も連携を継続していく話合いが進んでいる。</p> <p>3 内容の充実、広いエリアを対象とした住民同士の交流が生まれ、引きこもりがちな被災者が外に出るようになり、心と体の健康へつながった。</p> <p>4 内陸からの参加者にとっては復興の現状を肌で感じる貴重な機会となり、交流人口の拡大や地域の魅力発信の役目も果たすことができていた。</p>
<p>事業実施 年度以降 の方針</p>	<p>次年度は行政の補助金や民間の助成金などを活用しながら実施する。</p>
<p>評価</p> <p>(上段の該当する評価にチェックを付け、下段にその理由を記載してください)</p>	<p>被災地の復興・被災者支援に関して、</p> <p><input type="checkbox"/> A：特に優れた成果が得られた <input type="checkbox"/> B：優れた成果が得られた</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> C：一定の成果が得られた <input type="checkbox"/> D：限定的であるが成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> E：成果が得られなかった</p> <hr/> <p>(上記評価の理由)</p> <p>計画達成項目数割合が 67%であるが、アンケート結果は 88%であることから、「一定の成果が得られた」と評価とする。</p>

整理番号	(1) - 9
事業名	滝沢市在住の東日本大震災による内陸避難者の地域での自己実現と自立生活に向けた基盤整備事業
取組実施主体と役割分担	特定非営利活動法人いなほ
事業概要	<p>【事業概要】</p> <p>1 東日本大震災で被災し、滝沢市に在住する内陸避難者を対象にこれまで実施してきたサロン活動・交流会などを、内陸避難者が立ち上げた自助グループが主体となって企画運営ができるよう2カ年計画を立て運営支援を行う。</p> <p>2 今年度は自己実現と自立生活に向けた基盤整備事業を目的に以下の事業を実施する。</p> <p>(1) 内陸避難者の地域での自己実現の促進</p> <p>(2) 被災高齢者の地域での自立生活の支援</p> <p>(3) 関係機関との連携体制の強化と相談体制の整備</p> <p>≪前年度から発展した取組み≫</p> <p>1 内陸避難者が地域の人材として生きがいを持って生活を送ることができるよう仕組みを構築する。</p> <p>2 関係機関と連携した見守り・相談体制の整備</p> <p>3 内陸避難者の自助活動・生活をサポートしてくれる、地域ボランティアの構築・育成による支援体制の構築</p> <p>【実施計画及び活動実績】</p> <p>1 内陸避難者の「地域人財」登録と人材派遣 (実績) 32回(達成率89%) 参加者数 延べ 2,180名</p> <p>2 被災高齢者対象サロン お茶のみサロン (実績) 8回開催(達成率89%)、参加者 114名</p> <p>3 被災高齢者の移送支援 勉強会等への移送支援 (実績) 33回(達成率117%) 延べ 351名</p> <p>4 関係機関との連携体制の強化 料理教室 (実績) 4回開催(達成率66%)</p> <p>5 被災高齢者等の状況把握 ヒアリング・生活相談等 (実績) 電話及び訪問 529件(達成率176%)</p>

<p>事業費と その内訳</p>	<p>【財源内訳】 (国) 1,696,000 円 (県) 594,000 円 (取組実施主体) 254,738 円 計 2,544,738 円</p> <p>【経費内訳】 人件費 2,341,689 円、旅費 19,519 円、消耗品費 109,421 円、 通信運搬費 57,589 円、使用料及び会場借料 8,440 円、 その他 8,080 円、計 2,544,738 円</p>
<p>事業の 成果</p>	<p>【成果目標の達成状況】 県全体の事業の達成目標 復興・被災者支援による受益者の取組に対する満足度についてのアンケート集計結果において「どちらかといえば改善した」以上の割合 県目標値 80% → 本事業 87.83%</p> <p>【直接的な効果】 上記【実施計画及び活動実績】のとおり。</p> <p>【波及的な効果】 1 「地域人財」の人材派遣を通じ、被災者は地域で活動することの喜びを実感したり、徐々にではあるが自立に向けた手ごたえを得たりしている様子が感じ取れた。 2 被災高齢者サロン開催により、高齢者は孤独な生活から地域社会に足を踏み出す機会を提供され、また、滝沢市のスポーツ推進委員による介護予防軽体操を教えてもらうなど有意義な時間を過ごしている。</p>
<p>事業実施 年度以降 の方針</p>	<p>1 各種イベントの簡素化・有料化をする。 2 関係機関との協力による経費の圧縮、企業等からの寄付金により安定的な財源の確保をはかる。</p>
<p>評価</p> <p>(上段の該当する評価にチェックを付け、下段にその理由を記載してください)</p>	<p>被災地の復興・被災者支援に関して、 <input type="checkbox"/> A：特に優れた成果が得られた <input type="checkbox"/> B：優れた成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/> C：一定の成果が得られた <input type="checkbox"/> D：限定的であるが成果が得られた <input type="checkbox"/> E：成果が得られなかった</p> <p>(上記評価の理由) 県のアンケート結果では満足度 87%と高い評価を得ているものの、事業計画 5 項目中 3 項目に計画未達が発生したことから、「一定の成果が得られた」と評価する。</p>

整理番号	(1) -10
事業名	文化芸術による新たなコミュニティ形成事業
取組実施主体と役割分担	特定非営利活動法人いわてアートサポートセンター
事業概要	<p>【実施計画及び活動実績】(()は前年度から発展した取組内容)</p> <p>1 市民参加の舞台振興と持続可能なコミュニティ形成活動</p> <p>(1) 陸前高田等市民劇未実施地域への啓発 (継続発展) 実績 陸前高田・釜石で各1回開催。のべ19名参加 <u>達成率 95%</u></p> <p>(2) みやこ市民劇の専門的スキルアップ支援 (継続発展) 実績 指導者派遣回数：17回 (殺陣・ダンス等) <u>達成率 141%</u></p> <p>2 地域・世代の交流と次世代を育む活動</p> <p>(1) 復興支援コンサートキャラバンの実施 (新規) 実績 1/14～1/16の3日間で5回開催。234名来場。 <u>達成率 156%</u></p> <p>(2) 子どもアーティストのアウトリーチ育成と交流推進 (継続発展) 実績 2/24 指導者2名派遣 参加者 9名</p> <p>3 被災地・被災者からの思いを伝え語り継ぐ活動</p> <p>(1) 震災小説の募集 (継続発展) 実績 応募総数 51編 <u>達成率 102%</u></p> <p>(2) 朗読劇ワークショップの実施 (新規) 実績 陸前高田市・釜石市で各2回開催。のべ31名参加。 <u>達成率 103%</u></p> <p>4 広く深く学び、コミュニティ(社会)に還元する活動</p> <p>(1) 沿岸被災地における文化芸術活動のニーズ調査 (新規) 実績 アンケート配布数：1000 回収率：62.1% (621件) <u>達成率 103%</u></p> <p>5 文化による支援を啓発する活動</p> <p>(1) 文化復興フォーラム(3月8日)の開催 (継続発展) 実績 3月8日 会場：もりおか町家物語館 来場者：23名(コロナ入場制限)</p> <p>(2) 文化復興の状況と課題、今後への提言をまとめた提言書(沿岸被災地における文化芸術活動のニーズ調査結果含む)の発行 (継続発展) 実績 発行：令和2年3月 B5版400部</p> <p>6 その他上記(1)～(5)の活動を支える活動</p> <p>(1) 運営会議 (継続発展) 実績 17回開催 <u>達成率 106%</u></p> <p>(2) ワンコイン募金 (継続発展) 実績 募金総額 89,976円 <u>達成率 90%</u></p>

<p>事業費とその内訳</p>	<p>【財源内訳】 (国) 3,481,000円 (県) 1,219,000円 (取組実施主体) 522,944円 計 5,222,944円</p> <p>【経費内訳】 人件費 3,176,330円、諸謝金 639,600円、旅費 538,725円 消耗品費 109,117円、印刷製本費 450,650円、通信運搬費 130,339円 使用料及び会場借料 133,538円、募集広告費 32,400円、 その他 12,245円 計 5,222,944円</p>
<p>事業の成果</p>	<p>【成果目標の達成状況】 ・県全体の事業の達成目標 復興・被災者支援による受益者の取組に対する満足度についてのアンケート集計結果において「どちらかといえば改善した」以上の割合 県目標値 80% → 本事業 69%</p> <p>【直接的な効果】 上記【実施計画及び活動実績】のとおり。</p> <p>【波及的な効果】 1 市民劇勉強会と朗読劇ワークショップでは、未実施地域での市民劇初開催と沿岸地域での朗読劇団体設立の機運を高めることができた。 2 「みやこ市民劇」への指導者派遣を行い、優れた演劇作品を上演することができた。また、参加者の市民劇製作・運営のノウハウが培われ、今後の継続開催に向けたコミュニティの基盤が安定した。 3 コンサートキャラバンや子どもアーティストへの指導により、地域や世代を超えた交流が生まれ、次世代アーティストの育成環境実現にも寄与できた。</p>
<p>事業実施年度以降の方針</p>	<p>持続可能な活動とするための資金調達については、これまで避けていた受益者負担を、入場料や参加費として徐々に定着させるほか、各種メセナ資金やクラウドファンディング、他の公的助成との組み合わせによる実施を検討する。 また、県及び市町村事業として継続できるものについては、協働による活動の継続に向け協議していきたい。</p>
<p>評価</p> <p>(上段の該当する評価にチェックを付け、下段にその理由を記載してください)</p>	<p>被災地の復興・被災者支援に関して、</p> <p><input type="checkbox"/> A：特に優れた成果が得られた <input type="checkbox"/> B：優れた成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/> C：一定の成果が得られた <input type="checkbox"/> D：限定的であるが成果が得られた <input type="checkbox"/> E：成果が得られなかった</p> <p>(上記評価の理由) 計画達成項目数割合及びアンケート結果 69%から、「一定の成果が得られた」と評価する。</p>

整理番号	(1) -11
事業名	自立したコミュニティの「絆力」強化
取組実施主体と役割分担	特定非営利活動法人陸前たがだ八起プロジェクト
事業概要	<p>【事業概要】</p> <p>人と人を繋ぎコミュニティ形成の、きっかけづくり、交流の場づくりや居場所づくりを行いながら、心の復興の後押しを行う。</p> <p>《前年度から発展した取り組み》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 集会所及び図書室を活用した居場所づくり（お茶っこ会、図書室イベント） 2 モビリアクラブ(軽体操) <ul style="list-style-type: none"> 陸前高田市の保健福祉総合センターを利用して、より地域住民が集まりやすい環境のもと、モビリアクラブを行う。 3 健康マージャン（飲まない、吸わない、賭けない）の実施 <ul style="list-style-type: none"> 図書室のある集会所及び今年新しく整備された陸前高田市の保健福祉総合センターを利用して、参加者の自主的運営を意識した健康マージャンの実施。 <p>【実施計画及び活動実績】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 仮設住宅住民、地域住民が気兼ねなく集える居場所づくり <ol style="list-style-type: none"> (1) 学校、企業などのボランティアのコーディネート 実績 9団体 延べ265名 達成率 53% (2) 図書室運営による居場所づくり 実績 開館日数 117日 利用者数 延べ1,476名 達成率82% (3) 集会所及び図書室を活用した居場所づくり 実績 10回開催 達成率142% 利用者 94名 達成率223% 2 地域コミュニティづくり、やりがい生きがいプログラムの実施 <ol style="list-style-type: none"> (1) モビリアクラブ(軽体操) 実績 2会場 開催回数 17回 参加者 延べ274名 達成率107.5% (2) ふれあい畑 実績 開催日数 延べ20日 参加者 延べ85名 達成率70% (3) 健康マージャン（飲まない、吸わない、賭けない）の実施 2会場 開催回数 18回 参加者 延べ55名 達成率65% 3 地域交流コミュニティ支援プログラム <ol style="list-style-type: none"> (1) 地区公民館や集会所を利用したサロン活動 達成率59% 開催回数 11回 利用者数 延べ251名

	<p>8/15 震災後初 盆踊り 参加者 約 200 名</p> <p>(2) 大人の遠足</p> <p>2/23 参加者 80 名 達成率 133%</p>
事業費とその内訳	<p>【財源内訳】</p> <p>(国) 2,308,000 円 (県) 808,000 円 (取組実施主体) 346,230 円</p> <p>計 3,462,230 円</p> <p>【経費内訳】</p> <p>人件費 2,471,581 円、諸謝金 3,000 円、旅費 335,029 円</p> <p>消耗品費 451,720 円、通信運搬費 8,700 円</p> <p>使用料及び会場借料 192,200 円 計 3,462,230 円</p>
事業の成果	<p>【成果目標の達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県全体の事業の達成目標 <p>復興・被災者支援による受益者の取組に対する満足度についてのアンケート集計結果において「どちらかといえば改善した」以上の割合</p> <p>県目標値 80% → 本事業 80%</p> <p>【直接的な効果】</p> <p>上記【実施計画活動実績】のとおり。</p> <p>【波及的な効果】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 受益者も企画の進め方について学び、イベントへの参加意欲が高まった。 2 サロンや交流会に参加できない方に、戸別訪問を通じて生活相談を実施し、孤立防止に繋がった。
事業実施年度以降の方針	<p>陸前高田市内で最大級の通称「モビリア仮設住宅」は令和2年3月末をもって集約されたことに伴い、「モビリア仮設住宅の最後の一人迄支援する」といった設立当初の目的は達成されたものとして解散の方向に進みます。</p>
評価	<p>被災地の復興・被災者支援に関して、</p> <p><input type="checkbox"/> A：特に優れた成果が得られた <input type="checkbox"/> B：優れた成果が得られた</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> C：一定の成果が得られた <input type="checkbox"/> D：限定的であるが成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> E：成果が得られなかった</p> <p>(上記評価の理由)</p> <p>アンケートでも 80%と良好な結果であったが、計画達成項目数割合は 8 項目中 4 項目 (50%) であることから、「一定の成果が得られた」と評価する。</p>

整理番号	(1) -12																																	
事業名	学びと交流の場を通じたコミュニティ支援事業～めだかの学校～																																	
取組実施主体と役割分担	特定非営利活動法人まあむたかた																																	
事業概要	<p>【事業概要】</p> <p>1. 法律サロンでは、誰でも参加できる様紙芝居やミニ寸劇などの手法を用いながら、生活再建のための学びを通じた「情報交換の場」とする。</p> <p>2. 交流サロンでは、一人ひとりの持つ力を出し合いながら活かし、ものづくり・生きがいつくりへの「自立」と、人とつながる機会を生み出す「活動の場」作り、楽しく学びながら団らんや情報交換ができる「憩いの場」を提供する。</p> <p>【実施計画及び活動実績】（（ ）内は開催回数ベースの計画達成率）</p> <table border="0"> <tr> <td>1 巡回法律サロン</td> <td>期間中 11 回開催</td> <td>参加者 41 名 (100%)</td> </tr> <tr> <td>2 悩み事相談 おしゃべりサロン</td> <td>期間中 16 回開催</td> <td>参加者 92 名 (100%)</td> </tr> <tr> <td>3 健康、栄養セミナー 料理教室</td> <td>期間中 4 回開催</td> <td>参加者 52 名 (50%)</td> </tr> <tr> <td>4 コミュニティ食堂</td> <td>期間中 8 回開催</td> <td>参加者 346 名 (100%)</td> </tr> <tr> <td>5 保存食作り</td> <td>期間中 2 回開催</td> <td>参加者 23 名 (67%)</td> </tr> <tr> <td>6 手作り講習会</td> <td>期間中 6 回開催</td> <td>参加者 7 名 (75%)</td> </tr> <tr> <td>7 ワークサロン</td> <td>期間中 6 回開催</td> <td>参加者 18 名 (100%)</td> </tr> <tr> <td>8 アトリエカフェ</td> <td>期間中 15 回開催</td> <td>参加者 49 名 (94%)</td> </tr> <tr> <td>9 リメイク講習会</td> <td>期間中 21 回開催</td> <td>参加者 249 名 (100%)</td> </tr> <tr> <td>10 ファッションショー</td> <td>期間中 1 回開催</td> <td>参加者 48 名 (100%)</td> </tr> <tr> <td>11 作品展示</td> <td>64 点 32 名展示</td> <td>(100%)</td> </tr> </table>	1 巡回法律サロン	期間中 11 回開催	参加者 41 名 (100%)	2 悩み事相談 おしゃべりサロン	期間中 16 回開催	参加者 92 名 (100%)	3 健康、栄養セミナー 料理教室	期間中 4 回開催	参加者 52 名 (50%)	4 コミュニティ食堂	期間中 8 回開催	参加者 346 名 (100%)	5 保存食作り	期間中 2 回開催	参加者 23 名 (67%)	6 手作り講習会	期間中 6 回開催	参加者 7 名 (75%)	7 ワークサロン	期間中 6 回開催	参加者 18 名 (100%)	8 アトリエカフェ	期間中 15 回開催	参加者 49 名 (94%)	9 リメイク講習会	期間中 21 回開催	参加者 249 名 (100%)	10 ファッションショー	期間中 1 回開催	参加者 48 名 (100%)	11 作品展示	64 点 32 名展示	(100%)
1 巡回法律サロン	期間中 11 回開催	参加者 41 名 (100%)																																
2 悩み事相談 おしゃべりサロン	期間中 16 回開催	参加者 92 名 (100%)																																
3 健康、栄養セミナー 料理教室	期間中 4 回開催	参加者 52 名 (50%)																																
4 コミュニティ食堂	期間中 8 回開催	参加者 346 名 (100%)																																
5 保存食作り	期間中 2 回開催	参加者 23 名 (67%)																																
6 手作り講習会	期間中 6 回開催	参加者 7 名 (75%)																																
7 ワークサロン	期間中 6 回開催	参加者 18 名 (100%)																																
8 アトリエカフェ	期間中 15 回開催	参加者 49 名 (94%)																																
9 リメイク講習会	期間中 21 回開催	参加者 249 名 (100%)																																
10 ファッションショー	期間中 1 回開催	参加者 48 名 (100%)																																
11 作品展示	64 点 32 名展示	(100%)																																
事業費とその内訳	<p>【財源内訳】</p> <p>(国) 2,507,000 円 (県) 855,000 円 (取組実施主体) 399,828 円 計 3,761,828 円</p> <p>【経費内訳】</p> <p>人件費 2,403,500 円、諸謝金 499,200 円、旅費 59,140 円 消耗品費 241,379 円、印刷製本費 15,189 円、通信運搬費 28,804 円 使用料及び会場借料 514,616 円 計 3,761,828 円</p>																																	

<p style="text-align: center;">事業の 成果</p>	<p>【成果目標の達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県全体の事業の達成目標 <ul style="list-style-type: none"> 復興・被災者支援による受益者の取組に対する満足度についてのアンケート集計結果において「どちらかといえば改善した」以上の割合 県目標値 80% → 本事業 84% <p>【直接的な効果】</p> <p>上記【活動実績】のとおり。</p> <p>【波及的な効果】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 専門家やスタッフとの距離が縮み、信頼関係もでき打ち解けた関係を築くことができた。その結果、サロン当日やその後の個別相談の件数も増加した。 2 自治会の人に声掛けや受付をしてもらったことで、住民の生活環境を知るきっかけとなり、今後の自治会での活動や見守りの役に立つことができた。 3 サロン活動の依頼を自力再建した住民より声掛けがあり、元々住んでいた地元住民と被災者との交流のきっかけとなることができた。 <p>【その他事業によって得られた成果等】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 陸前高田市と姉妹協定関係にあるクレセントシティの女性団体とお互いの手作り品の交流がはじまり、被災女性の国際交流と今後のビジネスチャンスに繋げることができた。 2 シルバー人材センターさんとの連携による「さきおり」を学んだことで、地域の高齢者、また、まだまだ活躍の場がある退職者などの生きがい作りにつながった。
<p style="text-align: center;">事業実施 年度以降 の方針</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 企画や運営方法などについては参加者と共に進めていく体制は整った。作り手さんのスキルアップを図り、活動費として捻出できる様努めていく。 2 健康・栄養セミナーは、経費を参加者負担とし、様々な形で医療関係者と共に開催していく予定である。
<p style="text-align: center;">評価</p> <p>(上段の該当する評価にチェックを付け、下段にその理由を記載してください)</p>	<p>被災地の復興・被災者支援に関して、</p> <p> <input type="checkbox"/> A：特に優れた成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/> B：優れた成果が得られた <input type="checkbox"/> C：一定の成果が得られた <input type="checkbox"/> D：限定的であるが成果が得られた <input type="checkbox"/> E：成果が得られなかった </p> <hr/> <p>(上記評価の理由)</p> <p>アンケート結果は、3分野総合的で84%と県が求めた80%をクリアしているものの、活動内容が11項目に及び相当な仕事量であったこともあり、計画達成項目数割合は64%となったことから、「一定の成果が得られた」と評価する。</p>

整理番号	(1) -13
事業名	大槌町子育て世代の継続的支援体制の構築事業
取組実施主体と役割分担	一般社団法人 Tsubomi
事業概要	<p>【事業概要】 大槌町で暮らす子育て世代を対象に、以下の取り組みを実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 子育て世代の居場所づくりを目的としたサロンの開催 2 相談窓口の開設・子育て世代が抱える問題の把握 3 各関係機関との連携体制の構築および強化 <p>【実施計画及び活動実績】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 子育て世代の居場所づくりを目的としたサロンの開催（達成率 105%） <ol style="list-style-type: none"> (1) ほっこり♡親子カフェ（手芸等の講座＋相談・交流カフェ） 開催回数 8回 参加人数 73名 51組 (2) リズムで遊ぼう！音カフェ（親子でリトミック＋相談・交流カフェ） 開催回数 6回 参加人数 41名 19組 (3) 季節の行事（親子で参加・実践できる季節にちなんだ行事） 開催回数 7回 参加人数 76名 35組 2 相談窓口の開設・子育て世代が抱える問題の把握 <ol style="list-style-type: none"> (1) 日常の育児生活における不安ごと・困りごとに対する相談窓口 相談件数 延べ 55 件（達成率 183%） (2) 子育て世代が抱える問題の実態調査のためのヒアリング及びアンケート ヒアリング実施件数 延べ 100 件（達成率 100%） アンケート実施件数 延べ 200 件（達成率 100%） (3) 上記のヒアリングや、支援機関での協議を経て、実態に関する報告書を作成 3 各関係機関との連携体制の構築および強化 <ol style="list-style-type: none"> (1) 連携強化を目的とした子育て支援関係機関への活動周知・協力要請 (2) 子育て支援会議 開催回数 11 回（達成率 157%） 参加人数 延べ 46 名

事業費とその内訳	<p>【財源内訳】</p> <p>(国) 1,362,000円 (県) 466,000円 (取組実施主体) 215,436円</p> <p>計 2,043,436円</p> <p>【経費内訳】</p> <p>人件費 1,921,476円、旅費 16,768円、消耗品費 105,192円</p> <p>計 2,043,436円</p>
事業の成果	<p>【成果目標の達成状況】</p> <p>県全体の事業の達成目標</p> <p>復興・被災者支援による受益者の取組に対する満足度についてのアンケート集計結果において「どちらかといえば改善した」以上の割合</p> <p>県目標値 80% → 本事業 92%</p> <p>【直接的な効果】</p> <p>上記【実施計画及び活動実績】のとおり。</p> <p>【波及的な効果】</p> <p>1 サロンが母親たちの居場所機能を果たし、参加することで“ママ友”ができ、子育てにおける母親の孤独感やストレスの解消につながった。</p> <p>2 子育て支援検討会を通して支援者それぞれが抱える課題を共有することにより、互いの活動やその対象者への理解を深め、それぞれの立場がより明確になり、団体間の連携・協力の必要性についても実感できたが、それを実行に移すにはまだ団体間に壁があることも分かり、個別で打ち合わせを設ける等の対応も実施した。</p> <p>3 行政と団体、また団体間で共通の支援対象者について情報を共有することで より包括的な支援方法を検討することができた。</p>
事業実施年度以降の方針	<p>【事業継続のための資金調達方法】</p> <p>1 法人が取組む他の事業で収益を生出し、本事業の事業費を一部補填する。</p> <p>2 法人への寄付を募り、本事業の事業費を一部補填する。</p> <p>3 実施目的及び内容に合った助成金には積極的に応募する。</p> <p>4 参加費の金額を上げ、受益者負担の割合を増やす。</p>
評価 <small>(上段の該当する評価にチェックを付け、下段にその理由を記載してください)</small>	<p>被災地の復興・被災者支援に関して、</p> <p><input type="checkbox"/>A：特に優れた成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/>B：優れた成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/>C：一定の成果が得られた <input type="checkbox"/>D：限定的であるが成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/>E：成果が得られなかった</p> <p>(上記評価の理由)</p> <p>計画達成項目数割合、アンケート結果ともに良好であるため、「優れた成果が得られた」評価とする。</p>

整理番号	(1) -14																				
事業名	復興支援 NPO なんでも出前相談会																				
取組実施主体と役割分担	特定非営利活動法人シニアパワーいわて																				
事業概要	<p>本事業は、平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災で被災した宮古、釜石、大船渡、陸前高田地区の NPO 法人を対象に経理・総務・労務等の懸案事項について課題解決に向けて助言・指導を行い、もって当該 NPO 法人の法令遵守に資することを目的に開催するものである。</p> <p>《前年度から発展した事項》</p> <p>以下の事項について、周知徹底した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 役員改選時の際の正しい登記（従来、重任の場合、登記が不要と考えている NPO 法人が多かった）。 2 働き方改革に伴う就業規則の改正と正しい年次休暇の付与の仕方の理解を得た。 <p>【実施計画及び活動実績】</p> <p>上期、下期に、釜石会場、陸前高田会場、宮古会場、大船渡会場の 4 会場にて各 1 回開催。（開催時間は初日は 13 時 30 分～17 時、二日目は 9 時～15 時）</p> <p>（活動実績）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>計画</th> <th>実績</th> <th>達成率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実施回数（上期）</td> <td>4 会場</td> <td>4 会場</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>実施回数（下期）</td> <td>4 会場</td> <td>4 会場</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>相談団体（上期）</td> <td>20 団体</td> <td>17 団体</td> <td>85%</td> </tr> <tr> <td>相談団体（下期）</td> <td>20 団体</td> <td>21 団体</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table> <p>（延べ相談件数 45 件）</p>		計画	実績	達成率	実施回数（上期）	4 会場	4 会場	100%	実施回数（下期）	4 会場	4 会場	100%	相談団体（上期）	20 団体	17 団体	85%	相談団体（下期）	20 団体	21 団体	100%
	計画	実績	達成率																		
実施回数（上期）	4 会場	4 会場	100%																		
実施回数（下期）	4 会場	4 会場	100%																		
相談団体（上期）	20 団体	17 団体	85%																		
相談団体（下期）	20 団体	21 団体	100%																		
事業費とその内訳	<p>【財源内訳】</p> <p>（国）780,000 円 （県）273,000 円 （取組実施主体）117,447 円</p> <p>計 1,170,447 円</p> <p>【経費内訳】</p> <p>人件費 662,800 円、旅費 414,550 円、</p> <p>消耗品費 52,669 円、印刷製本費 14,800 円、通信運搬費 17,428 円</p> <p>その他 8,200 円 計 1,170,447 円</p>																				

<p style="text-align: center;">事業の 成果</p>	<p>【成果目標の達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県全体の事業の達成目標 <ul style="list-style-type: none"> 復興・被災者支援による受益者の取組に対する満足度についてのアンケート集計結果において「どちらかといえば改善した」以上の割合 県目標値 80% → 本事業 83% <p>【直接的な効果】</p> <p>上記【活動実績】のとおり。</p> <p>【波及的な効果】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 NPO法人に対する信頼性の向上に寄与することができた。 2 コンプライアンス遵守の思想の普及がはかられた。 <p>【その他事業によって得られた成果等】</p> <p>東日本大震災から8年が経過し、次第に補助金なども先細りとなり、NPO法人の運営に苦勞し、独自財源をもたないNPO法人は解散なども考え始めている団体の中にはある。その一方、地元からは存在価値を認められており運営に苦慮している。</p>
<p style="text-align: center;">事業実施 年度以降 の方針</p>	<p>この種の事業は、東日本大震災からの沿岸地区の復興支援を大義に掲げ県の補助事業と自己資金で賄ってきた。今後も県や新たに地元市町村の補助金並びにNPO支援財団などの寄付金等を模索し、沿岸地区の再生に前向きに取り組んでいくこととする。</p>
<p style="text-align: center;">評価</p> <p>(上段の該当する評価にチェックを付け、下段にその理由を記載してください)</p>	<p>被災地の復興・被災者支援に関して、</p> <p><input type="checkbox"/> A：特に優れた成果が得られた <input type="checkbox"/> B：優れた成果が得られた</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> C：一定の成果が得られた <input type="checkbox"/> D：限定的であるが成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> E：成果が得られなかった</p> <hr/> <p>(上記評価の理由)</p> <p>アンケート結果は良好であったが、計画達成項目数割合(75%)から「一定の成果が得られた」評価とする。</p>

(2) 復興・被災者支援を行うNPO等の絆力強化

整理番号	(2) - 1
事業名	首都圏交流会及び専門家との交流会
事業実施主体	<input type="checkbox"/> 県直営事業 <input checked="" type="checkbox"/> 委託事業（受託者：特定非営利活動法人 いわて連携復興センター）
支援対象者の概要	沿岸被災地において復興・被災者支援を行うNPO等
事業概要	<p>復興・被災者支援を行うNPO等と支援者等との絆力を強化するため、首都圏の企業や団体を対象として、県内NPO等の活動紹介や復興支援に連携・協働して取組むためのマッチングイベントを開催する。</p> <p>また、マッチングイベントに参加するNPO等の企画提案力等を向上させ、寄附や助成金の獲得や連携・協働事業の実現のため専門家との交流会を開催する。</p>
事業費とその内訳	<p>事業費の総額：3,041,820円</p> <p>(内訳) 委託費：2,989,350円、旅費：52,470円</p>
事業の成果	<p>首都圏企業と県内NPO等との交流会及び専門家との交流会を以下のとおり実施した。</p> <p>1 首都圏企業と県内NPO等との交流会（東京交流会） 開催日及び場所：令和元年12月19日（木） 秋葉原UDX4階 Gallery 参加団体：NPO等（9団体）、首都圏企業等（32社+個人1名）</p> <p>2 専門家との交流会 開催日及び場所：令和元年9月30日（月） アイーナ（盛岡市） 令和元年10月1日（火） イーストピア宮古（宮古市） 参加者数：盛岡会場29名（うち東京交流会参加者2名） 宮古会場29名（うち東京交流会参加者6名）</p> <p>3 マッチング成果 マッチング達成件数：5件、次年度継続件数：38件 （例）首都圏企業等が配布するソフトとして、県内NPO制作の商品を選定（注文受注済）</p>
評価	<p>NPO等の絆力強化に関して、</p> <p><input type="checkbox"/> A：特に優れた成果が得られた</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> B：優れた成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> C：一定の成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> D：限定的であるが成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> E：成果が得られなかった</p> <p><small>（上段の該当する評価にチェックを付け、下段にその理由を記載してください）</small></p>

	<p>(上記評価の理由)</p> <p>東京交流会では、本県の復興状況やNPO等による復興支援活動の状況について首都圏企業に理解してもらうことができ、首都圏企業と県内NPOとの連携・協働を生み出す機会となった。</p> <p>東日本大震災から8年経過してもなお、首都圏企業32社(41名)と多くの参加者を得て目標値を達成するとともに、マッチングを達成した件数が5件、情報共有等を行える体制の構築等の次年度継続件数が38件の成果があった。</p>
--	--

(備考) 総括表に記載された全ての実施事業について、1件当たり2枚以内で記載してください。

整理番号	(2) - 2
事業名	審査委員会等運営事業
事業実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 県直営事業 <input type="checkbox"/> 委託事業 (受託者:)
支援対象者の概要	補助事業及び委託事業の実施団体
事業概要	<p>NPO等の絆力を活かした復興・被災者支援の取組事業の選定及び復興・被災者支援を行うNPO等の絆力強化として、首都圏での交流会等の受託団体の選定を行う審査委員会を開催する。</p> <p>また、上記選定事業の評価及び指導・助言等を行う。</p> <p>1 審査委員会の名称 NPO等復興支援事業審査委員会 (委員数5名)</p> <p>2 開催実績 ・審査委員会: 4回 (うち1回は書面審査) ・現地指導: 1回</p> <p>3 備考 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、3月に予定していた審査委員会 (事業報告会) を中止し、実績報告書等のホームページ公開に変更。</p>
事業費とその内訳	<p>事業費の総額: 2,359,719円</p> <p>(内訳) 人件費: 2,128,798円、報償費: 57,600円、旅費: 30,720円、消耗品費: 56,132円、役務費: 50,519円、使用料: 35,950円</p>
事業の成果	<p>金融、NPO法人、学識経験者、行政等の専門家5名を審査委員として委嘱し、以下の事業を行った。</p> <p>1 補助事業及び委託団体の選定 ・NPO等の絆力を活かした復興・被災者支援の取組を行う補助事業14事業を選定 ・首都圏交流会等の受託団体の1団体を選定</p> <p>2 団体への指導・助言等 ・補助事業に取り組む団体の現地訪問による実施状況の確認及び事業への助言の実施 ・補助事業者の実績 (実績報告書及び成果のプレゼンテーション資料を送付) の評価及び助言の実施</p>

<p>評価</p> <p>(上段の該当する評価にチェックを付け、下段にその理由を記載してください)</p>	<p>NPO等の絆力強化に関して、</p> <p><input type="checkbox"/> A : 特に優れた成果が得られた</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> B : 優れた成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> C : 一定の成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> D : 限定的であるが成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> E : 成果が得られなかった</p>
	<p>(上記評価の理由)</p> <p>1 NPO等の絆力を活かした復興・被災者支援の取組支援において、補助金により支援するNPO等が行う復興・被災者支援事業への参加団体数は目標値を達成しており、適切な補助事業の選定を行うことができた。</p> <p>2 審査委員による現地確認において、委員から各団体に助言等を行うことにより補助事業の趣旨に沿った事業の展開が可能となり、受益者満足度が目標値である「どちらかといえば改善した」の割合80%以上を達成する等、高い事業成果を得ることができた。</p>

(備考) 総括表に記載された全ての実施事業について、1件当たり2枚以内で記載してください。

3. 審査委員会の開催結果

- (1) 審査委員会の名称
NPO等復興支援事業審査委員会
- (2) 審査委員会の役割等
審査委員会は設置要綱による設置とし、委員は知事が委嘱した。
審査委員会所掌事務は、次のとおり。
ア 復興支援事業の委託を受ける団体・組織からの提案の選定に関すること
イ 復興支援事業のうち、NPO等の絆力を活かした復興・被災者支援の取組支援事業の選定に関すること
ウ 復興支援事業の評価に関すること
エ 復興支援事業の効果を高めるための指導・助言等に関すること
オ その他NPO等への支援の検討に関すること
- (3) 審査委員会委員の構成
日本政策金融公庫盛岡支店 国民生活事業融資第二課長 小原 禎宏
岩手県立大学総合政策学部 教授 倉原 宗孝
特定非営利活動法人ふれあいステーション・あい 理事長 佐々木 りほ子
特定非営利活動法人やませデザイン会議 理事 田中 卓
紫波町企画総務部企画課公民連携室 公民連携専門嘱託員 ハワード さおり
- (4) 今年度の開催結果
- 第1回
○開催日 令和元年5月30日
○議題 第1回審査委員会（補助事業）
○概要 応募助事業について、書面及びプレゼンテーションを踏まえ、補助事業の選定を行ったもの。
- 第2回
○開催日 令和元年6月7日
○議題 第2回審査委員会（委託事業）
○概要 首都圏交流会等の委託先について、書面及びプレゼンテーションを踏まえ、受託団体の選定を行ったもの。
- 第3回
○開催日 令和元年8月27日
○議題 第3回審査委員会（補助事業）
○概要 応募事業（二次募集）について、書面及びプレゼンテーションを踏まえ、補助事業の選定を行ったもの。
- 第4回（書面審査）
○議題 第4回審査委員会（補助事業）
○概要 応募事業（三次募集）について、書面審査を行ったもの。（採択なし）
- 現地確認
○実施日 令和元年
○確認先 （特非）総合型りくぜんたかた、（特非）まあむたかた、
（一社）SAVE TAKATA
○参加委員数 3名

4. 全体評価

- 1 補助事業においては、各補助事業実施団体が被災者の生活支援やコミュニティ形成支援等について、専門性や絆力を活かして、行政では手の届きにくいきめ細かな取組を実施した。
受益者アンケートの満足度の問いにおいて、「改善した」又は「どちらかといえば改善した」と回答した受益者の割合は約80%であり、被災者のニーズに合った満足度の高い取組が実施されたことが成果であると評価する。
- 2 東京交流会では、東日本大震災津波から9年が経過し震災の風化が進む中、首都圏の企業等に本県の復興状況やNPO等による復興・被災者支援活動を伝えることで支援団体との絆力を強化することができた。前年度並みの参加団体数を維持しつつ、目標以上の参加団体数を確保できたことや、マッチングの達成件数や情報共有等を行える体制の構築等の次年度継続件数においても成果を上げることができたものと評価する。
- 3 本事業等の実施により、復興・被災者支援活動を担うNPO等の運営力・絆力を強化してきたところであるが、未だ運営基盤の弱い団体も多く、引き続きNPO等の自立を促すとともに、企業・団体や市町村など多様な主体との連携や県民の参画により、持続的に復興・被災者支援の取組を進めていく必要がある。